

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校校内
 電話:070-1503-6401、044-988-0004
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>
 第110号

シリーズ川崎の歴史を知ろう！
 「川崎の文化財」-10

岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡) —岡上廃寺— (1)

===川崎市域における旧都筑郡内の遺跡===

川崎市教育委員会事務局文化財課学芸員 栗田 一生

川崎市域における旧都筑郡内の遺跡ということで、前回まで麻生区早野に所在する早野上ノ原遺跡について話をしました。今回からは、川崎市の飛地で、周囲を町田市と横浜市に囲まれた麻生区岡上に所在している岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡)の話をしていきたいと思ひます。

岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡)とは・・・とお話ししたいところですが、その前に、あまり知られていない「川崎市って実は凄い」という話をしたいと思ひます。それは何かといいますと、「川崎市内には古代に建てられた寺院が3つもある」ということです。全国に国分寺や国分尼寺

が建てられた、今から約 1,250 年ほど前の奈良時代の中頃、現在の川崎市域が属していた武蔵国では、1つの郡内に寺院が1ヶ所あるかないかという状況だったと考えられています。それだけ寺院を造営することは大変だったでしょう。そうした当時の状況にもかかわらず、現在の川崎市域は古代に橘樹郡、都筑郡、多磨郡という3つの郡に属していましたが、橘樹郡には古代影向寺、多磨郡には菅寺尾台廃寺(多磨区寺尾台)、そして都筑郡には今回お話しする岡上廃寺という3つの寺院跡が確認されているのです。当時造営することが大変だった古代寺院が、川崎市域という非常に狭い地域に3つもあったという事が、川崎市の実は凄いところといえます。

では、なぜこの川崎市域に、造営するのが大変だった寺院が3ヶ所も建てられたのでしょうか？これはなかなか難しい問題です。古代影向寺は、古代の役所である橘樹郡衙に隣接して造営されているので、古代橘樹郡の政治的背景の中で建てられたものと推測されます。しかし、岡上廃寺や菅寺尾台廃寺は近くに郡衙等の公的施設もなく、ほぼ単独で存在しているので、それぞれの場所に建てられた理由は分かりません。ただ、理由の1つになりそうなものとして、どちらも当時の主要道路が通っていたと推定される場所の近くに建てられているという点があります。古代の寺院は、鎮護国家を実践するための宗教施設だけでなく、政治・文化等の拠点としての性格もありました。現在の東京都府中市に置かれた武蔵国府と、橘樹郡、都筑郡、久良岐郡、または相模国府等を結ぶ道路(駅路・伝路)のルートは、正確には分かっていますが、菅寺尾台廃寺は武蔵国府と橘樹郡衙を結んだ推定ルートに面し、しかも多磨郡と橘樹郡の郡境付近に位置しています。また、岡上廃寺も武蔵国府と都筑郡衙を結んだ推定ルートに面し、しかも多磨郡と都筑郡の郡境付近に位置しています。これは偶然でしょうか？ここからはあくまでも私の推測ですが、当時駅路・伝路という主要道路を移動していた人達にここが郡の境であることを示すとともに、それぞれのルートの守護所として、郡境に寺院が造営されたのではないかと考えています。

前置きが長くなってしまいましたが、川崎市域という狭い地域に3ヶ所の古代寺院が造営されていたことをお話ししました。その中で、旧都筑郡に位置する麻生区岡上に岡上廃寺が存在していたと推定されています。「推定」と書くのは、まだ確実に寺院跡であるという証拠が見つかっていないからですが、岡上廃寺が所在すると考えられる岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡)からは、古代の布目瓦とともに、寺と書かれた墨書土器が多く出土しており、本格的な伽藍をもった寺院ではないにしても、瓦葺きの建物をもつ寺院もしくは寺院的な施設があったものと考えられています。

この岡上廃寺については、次回、またお話ししたいと考えています。この岡上地区は、古代の遺跡から「岡上」と書かれた墨書土器が発見され、岡上という地名が古代にまで遡ることが判明するなど、古代の薫りが非常に残る、まさに現在の川崎市に残された貴重な歴史の里といえます。その中で、特に重要な遺跡といえる岡上廃寺の詳細が明らかになれば、現在国史跡となった橘樹官衙遺跡群と並び、川崎市の宝として、川崎市の歴史を解明するために必要不可欠な遺跡として認識されることになるでしょう。(つづく)

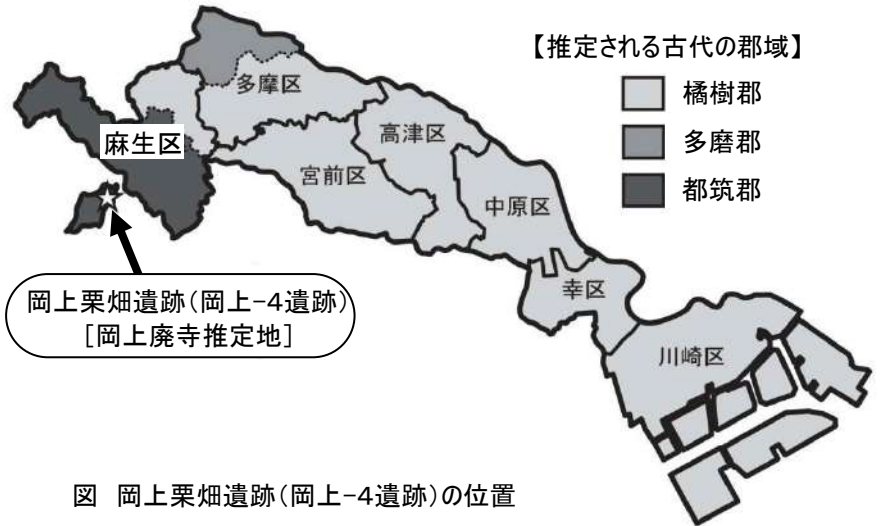


図 岡上栗畑遺跡(岡上-4遺跡)の位置

シリーズ
「麻生の歴史を探る」 第80話

民間信仰1 石造物～庚申塔

小島 一也 (遺稿)

徳川幕府によって戦乱の世が終わり、庶民の暮らしが安定してきた江戸期、村々に寺社への帰依とは異なる、石造物を造立しての民間信仰が起きてまいります。庚申・地神・地藏などの信仰がそれですが、年代からいうと、庚申塔が先に造立されているようです。

庚申信仰とは「人の体の中には三尸(さんし)の虫がいて、十干(じっかん)、十二支の組み合わせで60日に一度巡ってくる庚申(かのえさる)の日、人が眠ると体内から抜け出しその人の悪業を天帝に告げてしまう」という中国の道教(老子)から起きたものだそうで、平安・鎌倉時代の貴族や武士たちは「守庚申」とこれを信じました。室町時代にも「庚申待」と呼ぶ信仰があったようですが、石塔を造立するまでには至っていませんでした。

麻生周辺で一番古い庚申塔は岡上の隣、現緑区田奈町所在の慶安三年(1650)の銘がある5輪塔の庚申塔で「于時慶安三庚寅曆 奉造立庚申待為供養 塔婆奉願望 地日成就祈所 武州都筑郡恩田村 霜月吉日 施主 敬白」と刻まれており(「緑区歴史の舞台を歩く」相澤雅雄より)、年代から推してこの施主はこの地の土豪層と思われる。川崎市内での最古は幸区の無量院にある燈籠型庚申塔で寛文元年(1661)の銘があり、また生田長沢の盛源寺参道に見る石柱型庚申塔は寛文十年(1670)の造立で、「山王大権現為供養也 武州橘樹郡菅生郷長沢村」と記されており、この2基は市の重要郷土資料に指定されています。

庚申塔の特徴は正面に青面金剛像(しょうめんこんごうぞう=病魔退治の鬼神)が刻まれているのが一般的で願意銘文もさることながら、「庚申」を「申待」と呼んだことから、猿を天帝の使いとし石塔の下部に「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿が彫られているので他の石塔とは容易に判別がつかます。

市の調査によると麻生区内には39基の庚申塔があるといい(昭和60年)、その最古は細山香林寺参道にある延宝三年(1675)造立銘のあるもので、次に真福寺白山神社境内と早野戒翁寺にある延宝八年(1680)のもの、そして細山神明社境内には貞享三年(1686)のもの。下麻生の麻生不動境内にある庚申塔は元禄二年(1689)の銘があって、細山香林寺にはもう1基元禄九年(1696)の庚申塔があり、片平修廣寺の山門前の庚申塔は元禄十一年(1698)に造立(2基あるが片方は明治五年)されています。これ等を見るとこの地方の庚申塔の造立は江戸時代中期(4代家綱、5代綱吉)1600年代から始まったと言え、そのことはこの頃から庶民の間で庚申信仰が盛んになったことを意味し、それは明治・大正・昭和の初めまで続きます。

早野の子の神社境内には村内3か所にあった庚申塔が小屋を設けられ保存されており、その一つは宝永四年(1707)の造立で、この年は富士山が今の容姿になった大噴火の年であり、もう一つは享保元年(1716)の造立、三つめは文政七年(1824)のもので、この年は百姓主導の村方騒動が全国的に起きており、それぞれ多くの造立者の氏名が刻まれていますので、何かの願いがあったのでしょうか。なお、この早野には享和二年(1802)の造立で「庚申塔」の文字を刻印し、さらに「南～神奈川、東～江戸登戸、西～大山長津田」と記されて道標を兼ねた珍しいものも残されていました。現在は市立日本民家園に寄贈されています。

この庚申信仰は、地縁血縁の農家10～20軒が庚申講という講中(信仰仲間)をつくり、毎年5月と10月の年2回、庚申待と言って講員の家を宿に、青面金剛像を描いた掛軸に御酒を供え夜を徹したそうです。それにしても文化が開けて、現代人の体の中には、「三尸の虫」は居なくなっただけでしょうか。

参考資料:「歴史の舞台を歩く(相澤雅雄)」「麻生区の神社と寺院」「市石造物調査報告書」「早野七つの池と共に」



戒翁寺の庚申塔



修廣寺の庚申塔



子の神社の庚申塔

シリーズ

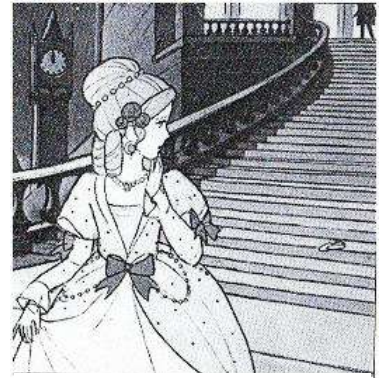
時間と時計の話 番外編

ガラスの靴を巡って (1)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆シンデレラ物語◆

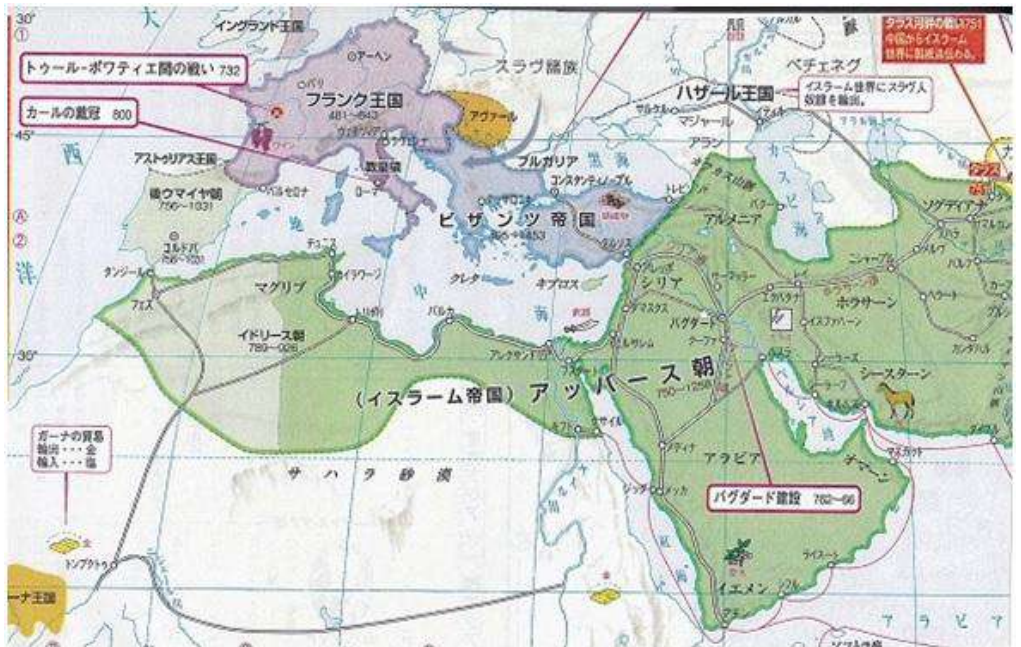
時間と時計の話、御愛読ありがとうございました。時間と時計の話は終わりで
すが、話の糸口にさせてもらったシンデレラ物語には、魔女のおばあさんとシンデ
レラとの「時間の約束」と並んで、もう一つ重要な小道具がありました。皆様ご存
知の片方だけのガラスの靴です。お城での夢のような舞踏会の2日目、約束の刻
限に気付いたシンデレラは大慌てでお城から退出する時に、片方のガラスの靴が
脱げてしまいます。脱げてしまったからなのか、シンデレラの身体から離れてしま
った片方のガラスの靴だけは、魔法が解けないでその場に残されました。



脱げたガラスの靴をそのままに、
宮殿の出口に急ぐシンデレラ

そのことは詮議しないことにしますが、今度はそのガラスの靴を片手に、ご家
来衆が国中を回って、年頃の女性のいる家庭を1軒1軒シラミ潰しに訪問して、
対象の女性を探します。そのご家来衆が、遂にシンデレラの家にも現れ、劇的な大
団圓に繋がって行く、皆様もご存知のストーリーが展開します。ここでは、数多い

妙齡の女性の中で、ガラスの
靴がピタリと合うのが、シン
デレラ1人というのは、信じ
がたいところです。それなの
に物語の世界だからという
のでしょうか、この物語は、そ
う疑問を持たれることもなく、
17世紀末~18世紀初頭のフ
ランスでも、リメイク版が大流
行した19世紀のイギリスでも、
広く受け入れられて行きました。
何故なのでしょう。



9世紀初頭のビザンツ世界と周辺世界

この疑問は、近世や近代の
西ヨーロッパの人々が、多少
なりとも親近感を持っていた
どこかの国に、年若い国王や
皇太子の花嫁候補を、家臣た
ちが靴を片手に探しまわった

国があったのではないかと
いう、探究心を刺激します。そ
こで探してみたのですが、す
るとたった1国、現実に王妃
や皇太子妃を美人投票で選ん
でいた国が見つかりました。
コンスタンチヌポリスを首都
とし、西欧世界のすぐ隣に位
置するビザンツ帝国(旧名東
ローマ帝国)です。

昨今までの女性の地位は、実
に低いものでした。女性の王
位継承を認めている国はあり
ますが、そうした国でも、結
婚後の女性の身分は、お相手
となる男性の身分に同化され
たのです。貴族身分の女性が
平民と結婚した場合、彼女は
平民として扱われ、貴族身分
を失います。それ故、男性は
女性の身分を考慮すること無
く、結婚相手を探すことが理
論的には可能でしたが、女性
はそうはいきません。王族に
属する女性は大変な結婚難だ
ったのです。対象となる男性
は、どこかの国の皇子様であ
ることが求められたからです。

ですから、欧州世界では、
王家同士の国際結婚が盛ん
だったので。そんな中で、最
盛期のビザンツ帝国だけは、
未婚の若い国王や皇太子の
妃を、居並ぶ宮廷貴族や王族
、他国の姫君達からは選ば
ないという不文律を持ってい
たのです。時代は9世紀、低
迷の時代を脱出したビザンツ
帝国は、再びかつての勢いを
取り戻したのですが、この時
期に皇帝を支える貴族たちは
、自分たちの娘や親族の娘
などを、皇帝に差し出すこと
は慎み、絶対にしないという
盟約を結んだのです。ようや
くイスラーム勢力の攻勢を跳
ね返し、国勢を建て直した
ビザンツ帝国は、帝国の安泰
を図るために、貴族同士の争
いの根を断ち切ろうと考え、
皇帝や皇太子の妃、さらには
皇子たちの妃は、貴族身分
以外の庶民の娘から選ぶと
決めたのです。これなら、皇
后や皇太子妃の実家や親族が
宮廷に出入りすることはあり
ません。考えたものです。専
制君主たるべき皇帝の妃は、
庶民の中から心やさしき美
人を選ぶことにしたのです。
このような制度が存在した国
は、世界各国の歴史をあちこ
ち涉猟しても、ビザンツ帝国
しかありません。一時期のロ
シアで、皇帝(ツァーリ)の
夫人を美人コンテストで選ん
だ時期があったのですが、選
ばれる対象は貴族身分の娘に
限られ、庶民の娘は対象外
でした。

庶民の娘から王妃を選んだ
国は、西欧世界のすぐ隣に確
かに存在したのです。そして
その事実は強い印象を西欧
の人々の心に刻み、伝承とし
て代々語り継がれたのでし
ょう。その王妃選びのイベ
ントでは、靴もまた大切な
小道具の一つだったので。
続く

平成29年度法人会員ご紹介

平成29年6月5日現在 (順不同、敬称略)

本年度の柿生郷土史料館「友の会」法人会員の皆様をご紹介いたします。
当館の活動を支えていただき、深く感謝いたします。
柿生郷土史料館は地域の皆様のご支援とご協力により運営しております。

- ◆(有)青戸建材店 ◆(株)赤元本舗 ◆(有)アクティブ イケダ ◆(株)麻生自動車
- ◆(医)総生会 麻生総合病院 ◆朝日ホーム ◆飛鳥典禮 ◆(有)荒川電気工事
- ◆(有)栄和 ◆エムケープリント(丸和印刷)◆王禅寺 ◆柿生アルナ園 ◆(有)柿生恒産
- ◆(福)鈴保福祉会 柿生保育園 ◆(学)柿の実学園 ◆(学)麻生学園 川崎青葉幼稚園
- ◆川崎信用金庫 柿生支店 ◆(株)観財 ◆菊川園 ◆(株)北島工務店 ◆(有)孝友商事
- ◆琴平神社 ◆栄運輸(株) ◆JA セレサ川崎柿生支店 ◆(有)白百合商事
- ◆(株)スズコウ商事 ◆誠和産業(株) ◆(株)タカミ ◆(医)晃進会 たま日吉台病院
- ◆(株)ティエムコーポレーション ◆(学)桐光学園 ◆(株)とん鈴
- ◆長瀬敏之土地家屋調査士事務所 ◆(株)富士建材 ◆中華料理福永 ◆プライマリー(株)
- ◆喫茶ベル ◆フラワーショップまきば ◆ベリーパークインフィッシュオン王禅寺
- ◆(有)山義産業 ◆(有)ユーコーポレーション ◆リック設計企画(有)
- ◆美容室 Lucir (ルシル) ◆小料理わかば

柿生郷土史料館催物案内 【入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

7月 2・9・16・23日(毎日曜日)

8月 5・12・19・26日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時 (7月30日は休館です)

サマースクール

馬の蹄鉄(ていてつ)を使って壁掛けを作ろう

日 時 平成29年8月19日(土)午後1時～3時

会 場 柿生中学校 金工・木工室

講 師 内野勝雄先生(王禅寺在住)

対 象 小学3年生～中学3年生 定員60名

参加費 1名につき250円 (教材費等の実費、当日徴収)

持ち物 上履き、飲み物、(彩色用油性のサインペン・マジック)

申し込み 氏名、学年、学校名、連絡先電話番号とFAX 番号またはメールアドレス
を記載して、下記までファックスまたはメールで申し込んで下さい。

申し込み先 小林 044-989-0757(FAX 専用) または zabi@za.wakwak.com

締め切り 7月25日(火) ただし、定員になり次第打ち切ります。

問い合わせ 柿生郷土史料館企画担当 小林基男

080-5513-5154、044-989-0622、zabi@za.wakwak.com

馬の靴である蹄鉄。かつては靴を履かせた唯一の動物として大事にされた馬、そして蹄鉄。その昔の暮らしを振り返りながら、蹄鉄を使ってお洒落な壁掛けやリースを一緒に作りましょう。



柿生郷土史料館友の会へのお誘い

柿生郷土史料館では友の会への入会を常時受け付けております。手作り史料館に参画しませんか。会員には「柿生文化」の送付や各種イベントへの優先受付などの特典を用意しております。この機会にぜひ入会をご検討ください。
詳細は直接当館にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。